

# 第19回 ところ町民舞台

創作劇

かしわならの詩<sup>うた</sup>

と き 2002年3月24日(日)  
午後3時開演  
ところ 多目的研修センター  
入場料 300円(幼児無料)

主催 第19回ところ町民舞台実行委員会  
後援 常呂町教育委員会  
常呂町文化連盟

# スタッフ・キャストの紹介

◆山本 要 75 歳 …… 渡部 高士  
農家 末広

◆山本千代 74 歳 …… 川口 睦子  
妻 豊浜

◆山本正一 48 歳 …… 森脇 幸喜  
会社員 要の長男 富丘

◆山本知子 45 歳 …… 兼田美鶴代  
正一の妻 中央町

◆山本拓也 18 歳 …… 金子 亮平  
正一の長男 開進町

◆山本昌子 15 歳 …… 関場 唯  
正一の長女 豊浜（小6）

◆山本聖子 12 歳 …… 川口麻衣子  
正一の次女 豊浜（小4）

◆山本政二 38 歳 …… 磯谷 等  
公務員 要の次男 北進町

◆山本紋奈 12 歳 …… 広瀬 法子  
政二の長女 北進町（小5）

◆田畑 38 歳 …… 広瀬 定善  
役場の係長 北進町

◆沖山 28 歳 …… 畑中絵里香  
保健婦 栄浦（高1）

◆源吉 70 歳 …… 坂口 健治  
近所の人 土佐

◆忠雄 60 歳 …… 金子 徳郎  
近所の人 開進町

◆明 55 歳 …… 浦西 孝浩  
近所の人 末広

◆正 50 歳 …… 兼田 良人  
近所の人 中央町

▲脚 本 …… 石渡 輝道  
湧別町(元常呂)

▲演 出 …… 田淵 正彰  
豊川

▲化 粧 …… 丸本 博子  
中央町

▲美 術 …… 大澤満智子  
栄町

▲音楽製作・照明 …… 猪股 一男  
栄浦

●協力者 澤田 昌彦 広瀬由里子  
田淵 春美 坂口 恵子  
森脇美智代

# ものがたり

## 第一場 平成△年8月上旬

戦後開拓者として東京からきた山本要と千代夫婦は、今は畑を人に貸し、入植地で二人きりで老後を送っている。

長男正一の子で大学受験をひかえた高校三年生の拓也が夏休みで遊びにくる。

千代には痴呆の症状があった。

保健婦らが訪ねてきて千代を特別養護老人ホームにと勧めるが、要は断る。

## 第二場 翌日

早朝、黙って外へ出て行った千代を近所の人達が連れ戻してきてくれる。

## 第三場 8月15日 お盆

お盆休みで正一、次男政二の家族がやってくる。

正一と政二は要に、生活に便利な場所に引っ越すこと、千代をホームに入れることを勧めるが、要は自分の土地で千代の面倒を見続けると言ってきかない。

拓也は自分が悩みを持っていたことを打ち明け、そして今自分が考えていることを語りだす。

◇上演時間 80 分



**募  
集  
中**

スタッフ・キャスト、そのほか  
協力してくださる方を募集しています。

土佐 坂口健治 (54・3327)  
末広 渡部高士 (54・3270) まで



# 公演にあたって

第19回ところ町民舞台実行委員長  
坂口 健治

まちの出来事を題材に創作劇上演を続けてきました「ところ町民舞台」も、今回で19回目を迎えることができました。ここまで支えてきてくださいました多くのみなさま方に厚くお礼申し上げます。

さて、今回の「かしわならの詩」は、戦後開拓に入った人の話しです。常呂の恵まれた大自然の中で人は生まれ育ち、そして老いて土となって消えていきます。そんな出来事はこの大自然の営みから見ればほんの一瞬の事かもしれません。しかしそこに生きて生活した人々は何千、何万といます。その一瞬一瞬を精一杯生きてきました。今日はそのひとこまを見ていただき、皆さんの生活と照らし合わせていただければ幸いです。

皆さんに満足していただけるかどうかかわからない舞台公演ですが、精一杯頑張りますので、最後までごゆっくりご覧くださいますようお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

ところ町民舞台の初回から役者として力強く舞台を牽引してくださっていた原田則良さんが、昨年 72 才でご永眠されました。今回の練習をされていてあらためて大きな柱を欠いた寂しさを感じました。これまで長年にわたり舞台のためにご尽力くださいました原田さんに深く感謝いたします。

## ところ町民舞台のあゆみ

第18回	第17回	第16回	第15回	第14回	第13回	第12回	第11回	第10回	第9回	第8回	第7回	第6回	第5回	第4回	第3回	第2回	第1回
平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成7年	平成6年	平成5年	平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和58年
「ところ川：常呂川汚水防止対策漁民大会より」	「雨のち虹の町：ある獣医の記録より」	「明日、天気になあれ」	「武四郎 登古呂を行く」	「常呂遺跡の発見」	「召集令状：常呂にも空襲があった」	「つつの顔を見せない「夕鶴」を創った町民舞台」	「兄ちゃんの帰省」	「川は語る我が郷土ところを」	「秋味のうた」	「オホーツク海に蜃気楼を見た」	「囚人の詩」	「海に生きる」	「流水の来る街」	「海・その愛」	「鉄山」	「オホーツク本線」	「常呂川」 常呂開拓百年記念

北の舞台芸術祭参加作品・札幌公演